

スクラム

～ 立志・挑戦・感動～

浮羽中学校学校通信

第22号(9月16日発行)

第46回体育祭「獅子奮迅」が終わりました

～特別な体育祭 その瞬間！一人一人の笑顔が輝いた～

9月13日(日)、第46回浮羽中体育祭が開催されました。コロナ禍の中、例年とは大きく違う体育祭にはなりました。生徒達は縮小された状況にも負けずに全力で競技し、やり切ったと思います。各班とも班長、副班長、学年リーダーを中心に「獅子奮迅」のローガンに負けない勇姿を見せてくれました。

総合優勝(赤班)、準優勝(緑班)、班コンテスト優勝(黄班)、でした。競技ですから勝敗はつきまします。でも体育祭までに取り組んできた中での、苦しい時の頑張り、仲間とのつながり、やり遂げた達成感、大切なことがいっぱい経験できたと思います。一人ひとりの生徒たちが持てる力を精一杯発揮し、最後に全員の笑顔が輝いていたと感じています。きっと日常生活の中で「しっかりとした根」が張ってきたからだと思います。各班最後の解団式での3年生の言葉、心からやりきった達成感と班のメンバーへの感謝の気持ちが溢れました。本当に一つ一つの場面で確実に浮羽中の絆が高かまっていると感じています。体育祭本番まで各班ではいろいろなことがあったはずですが、そんないろいろな困難を乗り越えながら、一つの目標に向かって協力し、心をつなげた結果が9月13日の体育祭だったと感じています。体育祭でのみんなの姿を見て、学校生活のいろんな場面で、今以上に全力で取り組んでいけると強く思いました。最後に保護者の皆様、コロナ対策でご迷惑をかけました。そうした中での体育祭へのご協力、そして子ども達への温かい声援ありがとうございました。これからも子どもたちへの応援をよろしくお願いします。

神無月～大きく心が実る月に～

9月の台風10号、暴風に大雨、被害はなかったのでしょうか。9月も体育祭が無事に終わり、後半に入りますが、まだまだ暑いです。生徒たちは新人戦に向けて部活動に頑張っています。油断せず熱中症などにはくれぐれも気を付けてほしいと思います。新川・田籠地区では、棚田に彼岸花が咲いています。もう秋ですね。ところで、10月は昔の言い方では「神無月」(かんなづき)といいます。日本中の神様が出雲の国(島根県)の出雲大社に集まり、来年をどんな年にするか会議を開くそうです。



そのため日本中の神様がいなくなるから付けられた名前だそう。話は変わりますが、田んぼが緑色から黄金色に変わってきました。稲穂が実ってきた証しです。10月に入れば稲刈りが始まる所も入ってきます。そこで「実るほど頭を垂れる稲穂かな」稲は中味が入ってくるにしたがって頭が下がってくるように、人間も中味が入ってくるにつれて謙虚になってくる、という意味です。もちろんその反対で、見かけは立派だが中身がない人もいます。みんなには外見



だけは立派だが、中身は何もない！なんていう人にはなあってほしくないと思います。そこで中身を作るためには、まず自分の心の貧しさに気づくことだと思います。気づくことから何事も始まると思います。心が貧しいと思うからこそ、心を豊かにしたいという自覚が生まれます。そうするといろいろな事に興味や興味が生まれ、いろいろな知識が身につくと思います。授業中の態度、チャイム席、自転車マナー、不要物に人の悪口など、まだまだ中味が空っぽのままの人がいるのではないですか。季節はこれから実りの秋を迎えようとしています。心を広く持ち、自分の根をグッと深くはり、周りに気配りができるようになると、あなたの心はずっしりと重くなります。素直に自分をふり返ることができる人は、心に栄養が行き渡り、大きく成長するにちがいありません。これから秋が深まる、穀物の実りに負けないように、あなたの心もたわわに実ってほしいと強く思います。